



## これまでの20年、これからの20年



理事 西村 孝幸

今期はじめて理事を務めさせていただきます。待機児童解消に向けた量の拡大が落ち着いた中で、今度は質の向上はもとより、定員割れ対策や引き続きの職員確保など、保育園を取り巻く課題はまだ数多くあります。微力ですが、先輩の理事の皆さまにご指導頂きながら、これまでの経験を活かし、精一杯務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今、保育園の施設長として毎日を子ども達と共に過ごし、その成長・発達を見守り、支援していくというこの職業につけたこと、改めて嬉しく思っています。

私は、社会人になった当初、このような立場になるとは夢にも思っていませんでした。

もともとは、家業であるアパレル業というまったく違う業界にいました。きっかけは、次女の保育園入園が上手くいかなかったことでした。大人の事情のしわ寄せが乳児にってしまったという事実を受けたとき、役所に「保育園を作ってほしい、増やしてほしい」と訴えるのではなく、何故か、「保育園を自分で作ろう」と思い立ってしまったんです。

そもそもは非営利（社会福祉法人立）の認可保育所を作りたかったのですが、知識もお金も人脈もない1父親にとってそれは難しいことでした。結果として小梅保育園は認証保育所としてスタートすることになりました。その後は、第三者評価の評価者になったり、区の子ども関連の委員等を務めながら、保育所の運営を学んでいきました。

次の転機は、10年前です。地域の方の勧めもあって、区議会議員に挑戦しました。1回目は次点でしたが、2回目、3回目は何とか当選することができました。もちろん、その時も、保育所の運営には携わっており、子ども関連の事業者代表として、2期、8年間精一杯務めさせていただきました。この議会での経験は、特に多くの方とご縁を持たせたことが、保育所の運営にも、そして人生を豊かにしていくことにも繋がっていると実感しています。そして今、区議会議員という「町の学級委員の立場」を離れ、念願であった社会福祉法人立の認可保育園となった小梅保育園の運営に専念しています。

今の目標は、保育園の目指している理念と保護者の方の想いを踏まえつつ、子ども達の生きる力の基礎を如何に育んでいくかを職員みんなで考え、話し合える環境を整えていくことです。園でよく話しているのは『先生は先に生まれたから先生なんです。だから子ども達を「指導」するのではなく、子ども達の本来持っている力を引き出す、そんな「支援」に力を注いでほしい』ということです。

まだまだではありますが、一步ずつ進んでいけたらと思っています。

このように、思いがけない、紆余曲折の20年でしたが、冒頭に記した通り、この仕事に巡り合えたこと、携わっていることには感謝しかありません。これから、どのようなことが待っているのかわかりませんが、「現役であと20年」を目標に、日々を大切にしながら、声がかかったものは可能な限り、前向きに手をあげ、また引き受け、役目を果たしていきたいと思っています。